

1 開催日

令和3年11月5日（火）13:30～15:30

2 開催概要

(1) 出席委員

横山会長、太下副会長、北川委員(オンライン)、澤田委員、鈴木委員、遠山委員(オンライン)、宮城委員、森谷委員、諸田委員（計9名）

(2) 議題

・次期ふじのくに文化振興基本計画の計画案について

3 発言要旨

(1) 基本目標

- ・基本目標は、内容がよく盛り込まれているが、県民の理解が必要。県民の目に見えるような計画にしてほしい。(鈴木委員)
- ・重点施策に異論は無く、SPACやオーケストラもいいと思うが、「それをみんなで見よう」というのは違う気もする、「一人ひとりが表現者」とは相容れない気がする。(北川委員)
- ・議論をしていくと無難な言葉となっていく。しっかりしたリーダーがディレクションしてくることが大事である。平均的なものとなるのは、「表現者」の理念と異なっていくので、運用上チェックが必要。(北川委員)
- ・基本目標を直すのは難しいかもしれないが、「一人ひとりが表現者」は抽象的ではないか。(遠山委員)

(2) 重点施策

<食文化>

- ・食文化については、記載が足りない。柱として打ち出していくべきである。(太下副会長)
- ・食文化はもっと盛り込んでほしい。食文化フェスティバルは重点施策①となるか。県内で成功している飲食店は、静岡の食材を生かしている。国内だけでなく海外にもアピールし、SPAC公演も活用してほしい。(鈴木委員)

<文化観光>

- ・観光に関わる「自然・歴史・食・芸術文化」が全部揃うところはなかなかないが、静岡県にはそれがある。国外から見て、日本は覗いてみたい国になっているのではないか。(宮城委員)
- ・「芸術回廊」は、言葉だけではなく実際にどれだけ生かされるか。単に演劇、伊豆文学賞を実施するのではなく、観光と結びつけられるとよいのでは。そして、どういう影響があったかを生の声を生かして次につなげる形としてほしい。(諸田委員)
- ・県立美術館には何度も訪れたことがあるが、他の何かとセットになったツアーがあると訪れやすくなるのでは。(澤田委員)
- ・「文化芸術を活用した観光地域づくり」に、景観や風土について、(10～20年後に向けた種まきとして) 文言だけでも入るとよい。また、風情や趣き(風致)といった言葉も計画に取り入れられるとよい。(森谷委員)

<文化ゾーン>

- ・地域の特色を持った文化ゾーンを創りつなげると芸術回廊になるといった仕組みを構築し、5期の手がかりとして次期につなげていくのはどうか。(遠山委員)

<その他の重点事項>

- ・重点施策①については、「世界に誇れる」よりも、以前の「世界に輝く」の方がよかったのではないか。「輝く」ぐらいの方が奥ゆかしい(横山会長)
- ・ある年齢だけをターゲットにするのではなく、(例えば、子どもと高齢者が共に参加するような)老若男女を巻き込めるような形が望ましい。(横山会長)
- ・障害者芸術祭・すこやか長寿祭といった名称では、(自分のように)応募したくなくなる人もいるのでは。4年後はジェンダーや年齢差はもっと無くなっていると思うので、年齢などの参加制限がないイベントにしてほしい。(諸田委員)
- ・静岡に人が引き寄せられ、人口が増えると思わせるような計画になってほしい。(宮城委員)
- ・指標については、ふさわしい指標は何かということを考えてほしいが、参考資料とするぐらいが無難ではないか。(太下副会長)